



白 門 板 橋

2005. 9. 20 VOL. 24

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■総会のご案内——

近隣支部との連係強化

支部長 小日向 孝介

第十七回板橋区支部定時総会に大学、学員会本部、友好団体はじめ会員多数のご出席をいただき、厚くお礼申し上げます。

私たちを取り巻く経済環境は、回復基調にあると言われながらも「踊り場」を脱し切れず、均等に豊かさを実感するまでに至っておりません。速やかに往時の元氣を取り戻したいと思えます。

先般、全国支部長会に出席し、学員会の現状を直接見聞する機会を得ました。気づいた点を報告しておきます。

- 一、二十一世紀における存在感のある大学を目指しているが、今回新たな施策を加え、全国大学の上位ランクを獲得する。
- 二、不振な募金活動を打開するため、各支部に専任をおいて「草の根運動」を展開し、更なる理解と協力を得るようにならなければならない。

- 三、在学中に学員会費の徴収ができる「代理徴収制度」を決定
- 四、本年四月より個人情報保護法が施行されたので、学員会名簿の取扱いについては、特段の配慮を願いたい。

さて当支部のこの一年の活動も、役員はじめ会員各位のご協力のお陰をもちまして、ほぼ計画通り消化し、常任幹事会の討議を経て、大綱をまとめ上げることができました。ここに原案を提示して、ご承認をいただくことになりました。

本年は、通常業務以外に、同好会の活動に顕著な実績を残しましたし、「北とびあ」での白門グリーンクラブ定期演奏会にも、当支部から多数参加するなど地域交流に貢献しました。

新年度は、会員増強運動に積極的に取組み、従来以上に近隣支部や本部との連係強化を図って参りたいと考えます。

支部ニュース

支部定時総会開催

第17回定時総会は、去る六月二十四日(金)午後六時から区立文化会館大会議室を会場に、立文化会館大会議室を会場に、学員会本部、大学及び友好支部から四名の来賓に会員六十七名が出席して、盛大に開催されました。

定刻六時に開会し、物故者に



▲写真は、総会を終えて記念撮影

黙祷を捧げた後、小日向支部長の挨拶をいただき、議事に入る。

平成十六年度・事業報告及び、収支決算報告並びに平成十七年度・事業計画案及び、収支予算案等四議案がそれぞれ満場異議なく承認可決されました。

総会最終後、来賓を交えて記念撮影を経て小休止。

第2部の懇親会は、徳永副幹事長の司会でスタート。

来賓の中西学員会副会長、富田事務局長、長田顧問からそれぞれ祝辞をいただいた後、都議選公示日で多忙な石塚顧問(区長)が駆けつけての挨拶があり、関常任幹事の乾杯の音頭で開宴。

和やかに歓談が進む中、祝電の披露を挟み、秋の旅行の説明もあり、事業計画が早々に実現に向けてスタートしました。

宴たけなわになって、岡田常任幹事のリードで全員が肩を組み、恒例の校歌・応援歌・惜別の歌を合唱した後、水野相談役の手締めで楽しい宴に幕を引きました。

(池田記)

屋形船で観桜会

支部恒例の観桜会は、区外プロックの担当で八年ぶり屋形船で行なった。

四月一日(土)午後一時に浅草橋・三浦屋の前に集合。支部会員三十二名と板橋区支部の客員・地元墨田支部及び白門四一会の有志七名を加えた総勢二十九名が参加しました。

定刻に、神田川の船着き場を出発、小日向支部長の挨拶に続き、平山副支部長の乾杯の音頭で早速宴会に入り、岸辺に満開の桜を眺めながら墨田川を上り、桜橋下に停泊。新鮮な刺身の盛り合わせと江戸前の天ぷら料理に舌鼓を打ちながら盃を傾けました。



(池田記)

友好支部と同舟でカラオケ等余興を堪能し、恒例の校歌など二点セットを合唱して散会しました。

熱い声援送る

○○○

恒例となった大相撲五月場所七日目(土)に、白門出身力士の応援に両国国技館へ繰り込んだ。

今年観戦には、白門四一会に声をかけたところ一〇名の参加があり、総勢二〇名の集団となって熱い声援を送った。

取組の後は、「ちゃんこ成山」で賑やかに会食し、四一会との親睦を深めた。

(大野記)



▲白門応援団一行

母校のニュース

内海英男元理事長逝去

去る八月二日、元中央大学理事長の内海英男氏が、胸膜炎で逝去された。享年八三歳。

内海氏は、旧宮城二区から選出された自民党衆議院議員で、九期連続当選し、建設相、国土庁長官などを歴任して、九三年政界を引退し、九九年まで中央大学の理事長を務めた。

板橋区支部の創立二〇周年記念式典には、大学から来賓として出席いただき、ユーモアに富んだ祝辞をいただいた。
ご冥福をお祈りします。



▲故内海英男元理事長

ホームカミングデー

一〇月三日に決まる

学員時報などで既報の通り、今年度のホームカミングデーは、来る一〇月三日(日)に多摩校舎で開催されます。

本件は支部事業計画の一つで、参加を希望される方は、当日バスを仕立てますから、指定の場所に集合して下さい。

なお集合場所及び時間は、同封の「案内」を参照の上、お申し込み下さい。先着二〇名限定です。

学員会費の代理徴収が決まる

学員会本部の悲願であった「学員会費」の大学による代理徴収制度(新卒業生全員から徴収する制度)が決まり、本年度入学生から四年次に維持会費として、二万円が徴収される。

これに伴い本部の財政が健全化するうえ、将来支部への加入者が増加することも期待される。

東都大学野球

春季リーグは最下位に終わる

前季に二十五年ぶり優勝した母校中大野球部は、豊富な投手陣を抱え大いに期待されたが、亀井(現巨人)君など主軸の抜けた穴を埋めることができず、最下位(五位)に終わった。

強豪の亜細亜大が野球部の不祥事で出場停止になっての五位は、まさに天国から急降下しての不名誉な位置。秋季リーグでの捲土重来を期して欲しいものです。

村上深(済)君

学生・囲碁本因坊に

毎日・佐川急便杯争奪第四九回全日本学生本因坊決定戦で本学の村上深君が東北大・大沢伸一郎君に白番中押し勝ちし、見事初優勝した。

中央大の優勝は、第四七回の白石勇二君以来、一年ぶり四回目となる。(栗原記)

カラオケ同好会便り

去る五月二七日(金)

午後六時から、今年度初のカラオケ同好会が開催された。これまでは、大山のスナックで開催されてきたが、今回は新装なったグリーンホール地下一階のサンイチ食堂を借りきって開催。

下妻市から参加した古澤名譽会長他十五名が参加して、営業時間ギリギリまで喉を競いました。(金子記)



▲カラオケ同好会一同

定時総会決議事項の報告

第17回・支部定時総会が、去る六月二十四日(金)午後六時から、区立板橋文化会館の大会議室を会場に、会員六十七名が参加して開催されました。全議案の決議事項を次の通り、ご報告申し上げます。

第一号議案

平成十六年度・事業報告

大野事務局長から次の通り報告
され、異議なく承認されました。

・四月二日(土) 支部観桜会

高島平ブロック担当

於/区立赤塚公園 43名

・四月二日(水)

ゴルフ同好会コンペ 19名

於/浦和ゴルフ倶楽部

・四月十四日(土)

囲碁同好会月例会 12名

於/西池会館毎月第3土曜

・五月二〇日(木)

幹事会 44名

於/ハイライフプラザ板橋

・五月二二日(金)

カラオケ大会

於/ベルフラワー 12名

・六月一〇日(木)

総会準備打ち合わせ

於/大山・高社郷 6名

・六月一九日(土)

定時総会

於/区立文化会館大会議室 68名



・七月六日(火)

会員名簿発行会議 6名

於/板橋 喫茶・宝石

・七月二六日(金)

会報編集会議 7名

於/巣鴨 喫茶ノアール

・八月一七日(火)

常任幹事会 23名

於/池袋・あうる

・八月二五日(水)

都区内支部連絡会 2名

於/中央大学記念館

・八月二七日(金)

会員名簿校正作業 7名

於/板橋 喫茶・宝石

・九月一七日(金)

会報発送作業 10名

於/文化シャッター研修所

・二〇月二三日(水)

ゴルフ同好会コンペ 15名

於/高根カントリークラブ

・二〇月二二日(金)

カラオケ大会

於/ベルフラワー 14名

・二二月二三日〜二四日(日)

支部秋の旅

東伊豆を訪ねる 26名

・二二月一九日(金)

港支部発会式 2名

・二二月二一日(土)

支部忘年会

於/よし昌 42名

▽平成一七年

・二二月二三日(木)

会報編集会議 6名

於/巣鴨 喫茶ノアール

・二二月二二日(土)

支部新年会 69名

於/区立文化会館会議室

・二二月六日(日)

白門グリーンクラブ鑑賞

於/北とびあ 30名

・二二月二二日(火)

会報編集会議 7名

於/巣鴨 喫茶ノアール

・三月八日(水)

会報発送作業 10名

於/文化シャッター研修所

以上

ホームカミングデー



*

日時/一〇月三日(日)

会場/多摩校舎

第2号議案 平成16年度・収支決算報告の件

平成16年度・収支決算報告書
(自平成16年4月1日～至平成17年3月31日)

【収入の部】 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
年会費	600,000	555,000	▲ 45,000	3,000円×185名
総代会費	490,000	486,300	▲ 3,700	7,000円×68名
旅行会費	885,000	825,000	▲ 60,000	30,000円×26名
観覧会費	172,000	172,000	0	4,000円×43名
新年会費	560,000	493,000	▲ 67,000	7,000円×69名
忘年会費	250,000	215,000	▲ 35,000	5,000円×42名
幹事会費	100,000	115,000	▲ 15,000	5,000円×23名
常任幹事会費	100,000	68,400	▲ 31,600	1,500円×44名
受取利息	13,000	12,643	▲ 356	中央大学学債・第4回利息
前年度繰越金	2,125,996	2,125,996	0	
計	5,295,996	5,068,330	▲ 227,666	

【支出の部】 (単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	備考
総会費	490,000	454,434	▲ 25,566	文化会館
旅行会費	885,000	859,500	▲ 16,500	旅行
観覧会費	172,000	172,000	0	赤塚公園
新年会費	250,000	225,952	▲ 24,048	よし園
忘年会費	560,000	404,346	▲ 155,660	文化会館
幹事会費	100,000	115,000	▲ 15,000	池袋あづる
常任幹事会費	100,000	89,000	▲ 11,000	第2回発行
印刷費	50,000	231,850	▲ 181,850	総会資料他
通信費	150,000	156,750	▲ 6,750	会報送料
事務用品費	50,000	0	▲ 50,000	2回分他行事案内4回
事務所賃借料	60,000	0	▲ 60,000	
事務用品費	30,000	700	▲ 29,300	
同好会補助費	100,000	147,750	▲ 47,750	他支団総会出席及び会員慶弔金
送金手数料	80,000	40,000	▲ 40,000	四季、秋分、身節
寄付金	10,000	11,510	▲ 1,510	年会費振込料他
会員増進費	100,000	0	▲ 100,000	中大125周年記念事業寄付金
会員名簿作成費	100,000	86,423	▲ 13,575	第3年度分振出
雑費	50,000	11,266	▲ 38,734	
次年度繰越金	1,608,996	1,943,853	▲ 334,857	
計	5,295,996	5,068,330	▲ 227,666	

凡例：増減額の ▲印は、予算額に対して少ない数字を示す。
無印は、予算額を超えた数字を示す。

貸借対照表

(平成17年3月31日現在) (単位:円)

資産の部			負債・剰余金の部		
科目	摘要	金額	科目	摘要	金額
現金	手元有高	12,180	繰越剰余金		2,125,996
郵便振替口座	3-568929	80,860	当期剰余金		▲ 182,143
郵便貯金	69518001	1,152,123			
郵便定期貯金	3728043	72,000			
積立預金	楽善資金・振替	1,000			
前渡金	6月総代会場子	45,700			
	約費他				
投資有価証券	大学債残高	600,000			
計		1,943,853	計		1,943,853

以上のとおり決算報告致します。

平成17年6月24日

支部長 小日向 孝介◎
会計 久米 英雄◎
会計 益田 永治◎

以上、支部決算につき監査の結果、適正にかつ適法に表示していると認めます。

平成17年4月22日

監事 栗原 泰房◎
監事 関上 裕次◎

第三号議案

平成十六年度・収支決算報告

益田会計幹事(常任)から、左表の通り報告の後、関上監事から会計監査報告があり、満場異議なく拍手をもって承認可決されました。

第三号議案

平成十七年度・事業計画(案)

大野事務局長から下記の通り

説明があり、満場異議なく拍手をもって承認可決されました。

一、定時総会及び懇親会の開催

六月(四日)(金)

会場/区立文化会館

二、懇親会の開催

観覧会 四月(日)(土)

*扇形船 実施済み

旅行会 秋に実施予定

忘年会 年末に予定

新年会 一月に予定

三、他支部との交流

*都区内支部連絡会など

四、中央大学創立二二五周年記念

事業への協力

*募金など

五、会員増強運動

*今年も継続して会員増強に努める。

六、会費納入率のアップの推進

七、同好会活動の促進

*囲碁同好会 毎月第4土

*ゴルフ同好会 4・9月

・カラオケ同好会 5・10月

・パソコン同好会 11月

八、広報活動

*会報『白門板橋』の発行

年二回(二月・九月)

*中央大学『学員時報』への寄稿

九、「ホームカミングデー」及び同時開催の「留学生との集い」に参加と協力

以上

第四号議案

平成十七年度・予算案

益田会計幹事(常任)から、左表の通り説明の後、議長から場内に諮られ、満場拍手をもって承認可決されました。

第五号議案

その他

役員人事について、栗原(三)森監事の逝去に伴い、監事一名が欠員になっていますが、補充せず残任期間は現状の二名で臨むことが諮られました。

第4号議案 平成17年度・収支予算(案)の件

平成17年度・収支予算(案)
(自平成17年 4月 1日～至平成18年 3月31日)

(単位:円)

【収入の部】			【支出の部】		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
年会費	600,000	3,000×200名	会費	490,000	
総会費	490,000	7,000×70名	総会費	885,000	
新幹線会費	835,000	29,500×30名	新幹線会費	390,000	** 実施済
職代会費	330,000	10,000×33名	職代会費	250,000	
5年分会費	250,000	5,000×50名	5年分会費	100,000	
4年分会費	490,000	7,000×70名	4年分会費	100,000	
3年分会費	100,000	2,000×25×2	3年分会費	250,000	年2回発行
2年分会費	100,000	2,000×50×1	2年分会費	50,000	年2回発行
受取利息	13,000	大字債第4回利息	受取利息	150,000	年2回発行
			受取利息	50,000	年2回発行
			受取利息	10,000	年2回発行
			受取利息	150,000	年2回発行
			受取利息	30,000	年2回発行
前年度繰越金	1,943,853		前年度繰越金	12,000	
計	5,261,853		計	100,000	
			計	1,514,853	
			計	5,261,853	

TOPICS 二題



佐原男に小見川女 浴衣が似合う江戸男

☆

☆☆

「東男に京女」(「京女に江戸男」と同義)は、聞き慣れた諺だが、「佐原男に小見川女」は、初めて聞く諺。川柳は、初めての体験だったが、あらかじめ決められてある宿題を各二首、事前に投稿するルール。宿題は、

・天ぶら
・手拭い
・テレビ

それにしても小見川という地名は何処か? 「おみがわ」と読み、千葉原佐原市に隣接する町の名である。川柳は、易しいようで難しい。しかし楽しいものだ。

板橋白門会のマドンナ・Mさんは、小見川町の生まれで佐原女子高校を経て、中大へ進学した。気になるのは、ご主人が佐原出身の方なのか? ということ。それが、何と、長崎県出身の武道に長けた九州男児。

佐原男に勝る配偶者に巡りあったということです。優に喜寿を過ぎた長老だが浴衣がよく似合う、威勢の良い江戸男の面目躍如でした。(H記)

告知版

■秋の旅行

越後・大湯温泉に決まる

支部恒例の秋の旅行が、新潟県魚沼市の大湯温泉に決まりました。

大湯温泉は昨年計画した旅行地でしたが、予期せぬ中越地震の余波を受けてやむなく断念しましたが、復興の後押しになればとの要望に応えて実施することになりました。

奮って参加してください。

記

日時 一〇月一九〜二〇日

旅行費 二九、五〇〇円

宿泊先 越後・大湯温泉

ホテル湯元

申込先 近藤、三宅、川崎、鈴木(裕)

期限 九月三〇日(金)

*

■詳細は、同封の要項を参照してください。

忘年会の日程決まる

*

今年の忘年会の日程などが、左記の通り決まりました。

記

日時 十一月 九日(金)

会場 板橋区二丁目

割烹・仕出し「かすが」

会費 六、〇〇〇円

* 追ってご案内します。

新年会の日程

来年の新年会の日程などが、左記の通り決まりました。

記

日時 一月三日(土)

会場 区立文化会館

会費 七、〇〇〇円

* 追ってご案内します。

会費納入のお願い

□□

今年度の支部会費が未納の方は、同封の振込用紙で納入下さるようお願い致します。(会計幹事)

■支部名の別称

「板橋白門会」に決まる

*

去る八月二十五日に開催された常任幹事会で、板橋区支部の別称を「板橋白門会」にすることが決議されました。

これは、各種行事の案内など支部内で連絡する際に使用する別称で、対外的に発信する公式の文書等には使用しません。

(大野記)

仲間を増やそう

■

支部事業計画の一つに「会員増強運動」があります。

縁あって白門に学んだ学友の「板橋白門会」入会を誘って下さい。

各種の行事や趣味を通じて、交友の輪を広げるよう働きかけて下さい。卒年不問です。

(事務局)

訃報

■■■

謹んで

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

*

▼田永嘉彦(14年・経) 二月逝去

▼板橋区蓮沼町二丁目三

元支部長、顧問

▼森 英正(32年・法) 二月逝去

▼板橋区大山金井町三六〇七

元副支部長、監事

▼相原忠志(25年・商) 二月逝去

▼板橋区東新町一ノ三〇ノ四

▼木下隆雄(38年・商) 三月逝去

▼三月逝去

▼板橋区坂下二ノ二七ノ九

▼桜井 正(24年・法) 七月逝去

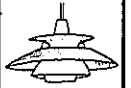
▼七月逝去

▼板橋区赤塚三ノ一八ノ六

(事務局)

(事務局)

逢坂剛 文学拾い読み



『配達される女』

集英社文庫
□

二〇〇四年四月二十五日第一刷

逢坂剛二度目の登場。およそ一年前の発行で、比較的新しい作品である。

文庫本の表紙には、「配達される女」とあるが、実際は

- ・悩み多き人生
- ・縄張り荒らし
- ・配達される女
- ・苦いお別れ
- ・秘めたる情事
- ・犬の好きな女

の短編六作が収められている。ただし、登場するのは一貫して同じ人物であり、舞台は御茶ノ水警察署シリーズの一篇でもある。従って、御茶ノ水や神田界限の地名が頻繁に出てくるから、

地名を線で結んで行くだけでも面白く、駿河台に学んだ白門學員には一段と楽しくストーリーに入っている。

「配達される女」の中に、筆致を探ってみると、

ベルが鳴った。

梢田威は、急いで尻のポケットを探り、携帯電話を取り出した。歩きながら受信ボタンを押す。

「もしもし」

「おい、今どこを歩いている」
斉木斉の声だった。

「山の上ホテルの近くだ」
「近くじゃ分かん。具体的に言

え
「神田駿河台一丁目と猿樂町一丁目の境の坂道を、神田小川町三丁目方面へ向かって移動中だ。いかげんにしとけよ。いくら携帯を持ったからって、三十分おきにかけてくることはないだろう。「玩具じゃないんだぞ」

以下略

御茶ノ水警察署保安一係の斉木係長と、署内をパトロール中の梢田巡查部長の携帯電話で交信する冒頭のシーンである。

とても職場の上司と部下の電話交信とは思えないやりとりになる。思わず読者を引きずり込む筆致は、これぞ逢坂剛文学の神髄かと感心させられる。

そして先へ進むと、本庁から転勤して来た五本松小百合という才媛の主任刑事が絡んで、事件を追う様が実に面白い。

暑い夏の読書は、ミステリーものかハードボイルドものに限る。本家・北方謙三とは少し違った筆致の軽ハードボイルドと言った感じで、楽しく読めるのがいい。
(平山記)



中尾三度目の優勝

大相撲七月場所
中大出身力士の星取表
休場明け豪風が勝ち越す

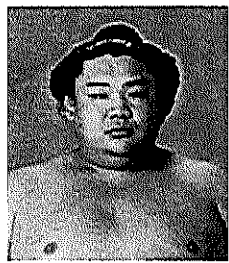
○○○

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒
東前頭2枚目 七勝八敗

▽豪風(尾車)

本名・成田 旭 平14卒
東前頭11枚目 八勝七敗



▲写真は中尾

▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒
東前頭13枚目○勝二敗12休

▽魁道(友綱)

本名・田中康弘 平10卒
幕下東3枚目一勝六敗

▽中尾(松ケ根)

本名・中尾浩規 平7卒
幕下西33枚目七戦全勝

(池田記)

■謎の多い地名

十一世紀から十五世紀にかけて、板橋区・豊島区・北区・練馬区などは、豊島氏の勢力下にあった。

豊島氏は、武蔵国豊島郡の地

地名の由来…①⑥

「志村」の巻

域名の下に村が付く。志村氏が姓

とした志村は、もともとは「志」

だけではなかったのか。

「古は堀之内村と唱へしが寛延

二(一七四九)年今の村名に改む

と云」との資料もあるが、それ以

前の『北條役帳』にも江戸志村の

名が出てきており、『新編武蔵風



▲写真は、志村・熊野神社

土記』に書かれているように「古名に復せしなるべし」が正しいと思われる。

それでは、「志」は何の意味な

のか？この謎を解くため、志村城

跡地にある熊野神社の宮司・石川

卯之吉氏を訪ね、お話を伺った。

そこで大変貴重な資料を見せて

いただいた。

■志村郷土誌に謎を解く

昭和七年に作られた『志村郷土

誌』から、その一節を引用させて

もらうと、志村の「し」は、アイ

又語にて「磯」即「波打際」の意

である。

これが正しいかどうかは分から

ないが、疑問が解けた気がした。

石川氏は、アイ又語の権威・金田

一京助氏に師事されたこともある

方で、万葉集を書庫から持って来

られた。

万葉集巻一には、「金野乃、美

草刈草、屋村礼里之、兔道乃草子

能、借五百磯所念」(額田女王歌

)とあり、現代文に直すと、「秋

の野の、み草刈り草き宿れし、宇

治の京(みやこ)の仮庵(かりい

ほ)し思ほゆ」となる。

この他にも磯を「し」と読むも

のが幾つかあり、『志村郷土誌』

を作った先生方は、付近に分布す

る目塚などから、志村は波打際の

村と考えたようである。

赤塚城の出城としてできた志村

城であったが、大永四年江戸城を

逃げ出した鎌倉の管領・上杉朝興

を攻めて来た北條氏綱により焼け

落ちてしまった。この時の戦いで

志村城の侍・見次権兵衛は、一

人息子の権太郎が討たれる姿を

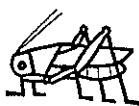
見て武士をやめ、その家屋敷を

寺にした。

これが、ごぶ樗で有名な志村

の延命寺である。

(中三川孝幸記)



編集後記

●「會員紹介」シリーズが低調で頭が痛い。八名の該当者をお願いして、わずか二名。支部の仲間に自己紹介することに何の不都合があるのか？

個人情報公開という次元ではないと思うが……

●いつもながら、「地名の由来」は面白い。現役時代の、借地だった会社の工場敷地を買収する時、地主

の延命寺・住職との折衝に難航し、檀家総代が中に入り、めでたく商談が成立したことを思い出す。取材ご

苦勞様でした。(平山記)